

K. T. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定するまでずっと TOEFL の勉強をしていたので、決定してからは、イギリスで取ることにしていた学科の勉強を少しずつするようにしていました。

事務的な準備で言うと、パスポートの有効期限が切れそうだったのでその更新をしたり、ビザ (Entry Clearance) が必要になるので大阪まで申し込みに行ったりしました。

私の場合、下宿をしていたため、住んでいたところを引き払ったり引っ越しをしたりでバタバタして忙しかったです。

アルバイトもぎりぎりまでしていました。

② 語学研修期間

Warwick の語学研修 (Pre-sessional course) は非常にしっかりしていると思います。先生方も慣れていらっしゃるののでやりやすかったです。ただ、6月頃になるとだんだん何度も同じことをやっているような気がして早く学期が始まらないかなと思っていました。Essay の書き方を習ったり、discussion や presentation の練習をしました。

特に、語学研修に来ている学生は Business、economics、management 等をやることになっている人が多い中、わたしは英文学をやることにしていたので語学研修期間中にする Reading 等が economics 系で飽き飽きしたこともありました。

でも、全体的にはサポートがいきわたっていて、がんばる学生には先生方も一生懸命に添削してくださるのでとてもいいコースだったと思います。

③ 正規科目履修期間

・履修科目 (決定までのプロセス、具体的に履修した科目名とその内容 (科目ごとに 100 字以内程度))

履修科目・・・Modes of Reading / Romantic and Victorian Poetry / Epic Tradition (講義聴講のみ)/ French

いろんな先生に「・・・本当に英文取るの？」と言われてながら、わたしはどうしても英文学が勉強したい！と思っていたので結局英文学をとることに決めました。

・授業、レポート、定期試験

他の学科と違って英文学科にはイギリス人の学生が大半でした。イギリスの大学では普通、ひとつの Module (科目) に対し 1 つないし 2 つの講義と 1 つのゼミから成り立っています。わたしは英文から 3 つの科目 (1 つは聴講だけしていました) と、フランス語をとっていました。正直言ってとてもしんどかったのですが、やりがいはありました。

Modes of Reading は一回生の科目で、文学の基本や論理を学ぶ科目です。たとえば、最初

はアリストテレスを読むことから始まり、詩から現代文学、フェミニズムまで勉強していきます。基本は Reading です。毎週 100 ページほどの Reading を読んでいかなければなりませんでした。この授業に対する Essay は 3500words 程のもの通年で 3, 4 つ書きました。

Romantic and Victorian Poetry は 2 回生の授業で、わたしにとって一番大変な授業でした。ゼミでは討論が主になります。この授業では名前のおりロマン派・ヴィクトリア時代の詩を読んでいくものでした。こちらも基本は Reading です。毎週とても大変でした。この授業に対する Essay は通年で 3500words 程のものを 2 つ書きました。

フランス語はとても楽しかったです。英語を手段として他の言語を学ぶのはとても興味深いことだと思ったし、むしろ日本語で学ぶより簡単なのかな、とも思いました。筆記試験が 2 回あり、口頭試験もありました。

④ クラブ、課外活動、ボランティア活動

Warwick には数えきれないほどの Society (サークル・クラブのようなもの) があります。わたしは Film Society のメンバーでした。メンバーになると学生が運営する映画が安く見ることができました。

わたしはスポーツをするタイプではないので、大学の中にある Warwick Arts Centre という一般の人も入れる施設をよく利用していました。そこで theatre, cinema, book shop, music centre などがあり、映画や劇をよく見に行っていました。もちろん Sports Centre という大きな施設もあるのでスポーツ施設も充実していると思います。

⑤ 現地での住まい (語学研修期間、正規科目履修期間) について (寮・ホームステイの決定方法、設備、イベント紹介など)

寮はすべてキャンパスにありたくさんの中から選べます。ただ、休暇中に開いている寮はそのうちの半分程度なのでよく見て決めてください。引っ越しが 2 回あったのが本当に大変でした。Warwick ではどこの寮でも必ず一人部屋です。ひとつのフラットに 5~7 人程度の部屋があり、フラットメイトとキッチンと浴室を共用します。食事は自炊になりますが、近くに大きな shopping centre があり、中に大きなスーパーや Asian shop という日本の調味料等を置いているお店もあるので簡単に日本食を作ることができます。イギリスは食べ物がまずいとありますが、そうでもありません。日本の食べ物がおいすぎるだけです。

⑥ 長期休暇の過ごし方

長いお休みは Christmas Holiday で、1 か月あります。Warwick は留学生に対してしっかりしているため休暇中も開いている寮がたくさんあるので、休暇中どこか必ず滞在するところを決めなければならないという心配はありません。でもほとんどの人は旅行に行っていました。わたしも全部自分たちで予約したりしてヨーロッパを旅行しましたが、とても思い出に残りました。わたしはそんなに旅行していない方だと思いますが、なかにはヨーロッパの国を全部制覇した人もいました。とても安い航空会社がたくさんあるので宿題・

勉強ともきちんと折り合いをつけて旅行を計画したら楽しいと思います。

⑦ 留学期間中の就職活動の取り組み

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

友達と買い物に行ったり、図書館で一緒に勉強したり、パーティーをしたり、些細なことですがすべて思い出に残っています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

今となってはつらくて涙したこともとてもいい思い出ですが、ゼミでみんなのように発言ができなかったり、Reading の量にストレスがたまったりしたことがありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

Warwick では 16000 人を超える学生が勉強しています。(一方同女は約 6000 人程度なので、2.5 倍ほどの大きさです。) そのうち海外からの留学生は 4000 人、世界約 125 カ国からの学生を擁しています。その中で様々な宗教・文化背景から来た学生と会えるのは本当に Warwick ならではと言えるとおもいます。私も数えてみると何十カ国から来た人と出会いました。その中で生活していると、わたしは日本でぬくぬくと、物理的にも精神的にもなんと狭い場所で生きていたのだろうと感じさせられました。とは言っても、やはりイギリス人が占める数は大半です。初対面でイギリス人はアメリカ人のように陽気に'Hey what's up?'とはいきません。日本人と同じようにとても礼儀正しく最初は無難な会話から始まります。そして、この国の人々はイギリス英語にとっても誇りを持っています。イギリスに留学を考えている方は行く前にぜひイギリス英語に触れておいた方がいいです。それと、よく、留学する日本人に対して、ヨーロッパではみな自分の意見を主張するから、黙っていることが多い日本人はちゃんと発言するようにした方がいい、と言われますよね。でも、わたしはそうは思いませんでした。イギリス人にもいろんな人がいます。わたしの友達はいつも静かで人前で発言するようなことはほとんどなく、意見を聞かれてもとても控え目に答えるような子でした。もちろん中にははっきりと意見を言う子もたくさんいますが、それは日本でも同じです。とはいえ、自分の意見を持つことはとても大切なことだし、YES/NO が言えることも本当に大切なことです。だけど、だからといって皆礼儀もなく自分を主張するのと言ったらそんなことはありません。むしろ礼儀正しいのはイギリス人も同じです。無理に自分の性格を変えることはないと思うし、日本人として常識と誇りを持っていれば、日本人の良さは必ず伝わります。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

Warwick の国際交流センターはとても親切で、困ったことがあれば相談できます。学科の先生方もみな助けになってくださいます。

ただ、日本のように素早い対応というわけにはいきません。それはどこの学科事務室でも、イギリスという国全体にも言えることですが、みんな、適当です。最悪の場合、忘れられていることもあります。わたしは9月に Academic Year が始まってから、学科のチューターの先生に「・・・あなた誰？あなたの情報まったくないけど・・・」と言われました。そこからいろいろな事務室やオフィスを走り回って結局自分でデータを集めて持って行きました。ということなので、待っていては忘れられてしまいます。何かあれば自分で行くようにした方がいいと思います。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの（パソコン持参の有無も含めて）

パソコンは必ず持って行ってください。Essay を書くのにも家族と連絡を取るのにも必要ですし、授業登録や寮を申し込むのにもすべてインターネットですることが多いのでないと不便だと思います。行く前はあれやこれやとなんでも持って行きたくなりますが、でもパソコン・カメラ・ソケットのアダプター以外は本当にこちらで買った方がいいです。ものがいつの間にかどんどん増えていくので持っていくのは最低限にした方がいいと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果

正直言って、今は自分ではどれくらい伸びているのかわかりません。でも確実に変わったと思うものが3つあります。語彙の数、イギリス人が実際に使っている普段の会話表現、それと世界に対する考え方でしょうか。Reading をたくさんしていたので語彙は増えたと思います。イギリス人が実際に使っている会話表現は、今まで学校で習ってきたアメリカ英語とは全く違うと感じました。俗語や会話表現になるほど両者はだいぶ違うみたいです。最後に、世界に対する考え方というのは、自分の、世界の人たちに対する見解が広がったな、という意味です。日本に住んでいると、周りは本当に日本人だらけですが、イギリス（ヨーロッパ）では外国人だらけです。さまざまな宗教を信じている人がいて、さまざまな文化背景から来た人がいて、一緒に生活していくのは、いい意味でも悪い意味でも、想像を絶するおもしろさです。もちろんたくさんの移民を抱えている国は、それだけたくさんの移民問題を抱えています。そんな場所で得たものは限りなく貴重なものになったと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

「長期留学はしてみたいけど、TOEFL の点足りないし・・・」とっていませんか。勉強すれば必ず点は上がります。協定留学で大学に留学するのは、単に語学留学するのとはまったく違います。実際に大学に入って、その国の学生と一緒に生活し、そこで学科を学ぶので、英語はただの手段にすぎません。そこで得られるものは絶対に大きいものになります。

す。ただ、こちらへ来て思ったのは一番大切なのは文法などの基礎です。文法がわかっていないとある程度までできても、そこで止まってしまう。しゃべれないし、読めません。なので、留学へ行く前に文法をこつこつやっておくのはとても大事だと思いました。がんばって留学の夢をつかんでください。

IV. 写真



寮の部屋です。右には広い机と棚があります。手前にはワードローブもあり、寮によっては自分の部屋に洗面台、お風呂もついていることがあります。清潔で過ごしやすかったです。今となっては生活感が染みついて離れたくないほどです。



友人のお誕生日 Cocktail パーティーをしたときのです。普段、まったくおしゃれしないイギリス人もドレスを着るときは着ます！左からイギリス人、日本人、シンガポール人、イギリス人、ノルウェー人、といろんな国籍の人がいるのもウォーリックならではの。